

川柳とぼとぼ

1. 宝くじ^{たぬき たた}狸の祟りつきまとう

* 「たからくじ」は「たぬき」ばかり。



マイクロソフトのAI「Copilot」が浮世絵風に描いたイラスト

2. 獅子舞^{ししまい}の しの字消え失せ年賀状

* 年賀状じまいが多かったな。

3. 鳶^{つたじゅう}重の吉原ガイドいまスマホ

* 鳶屋重三郎が最初に手がけたのが吉原ガイド本『吉原細見』。

4. 落語家もこっそり見てるべらぼうめ

* NHK大河ドラマ「べらぼう」、とても面白いです。江戸文化が目で見れます。廓話、人情話などを語る落語家が熱心に見ているようです。

5. 峰^{ほう}に鵬^{ほう} 豊^{ほう}が得した巴戦^{ともえせん}

* 金峰山、王鵬、豊昇龍が12勝3敗で並び優勝決定戦。三方一両損ならぬ一人勝ち。相撲協会のシナリオどおり？

6. 逆転の昇龍 天へ 横綱に

7. トランプのジジにすり寄るGAF A (ガーファ) かな

* GAF Aとはアメリカの巨大IT企業であるGoogle、Apple、Facebook、Amazonの4社の頭文字をとってつくられた言葉。

8. 美人アナ集めた局が美人局

* 「びじんきょく」と読むか、あるいは？

9. テレビもお先に消える夕刊紙

*フジサンケイグループの「夕刊フジ」が1月末で休刊。

10. 四字熟語「巳巳巳巳」^{いこみき}知った巳年かな

*2025年の干支は巳！ 特別企画展「へ〜びっくり！ 巳巳巳巳展」を宮島水族館が開催。「巳巳巳巳（いこみき）」は、互いに似ている物を例える際に使われる四字熟語。



【参考】 以下は毎日新聞のサイト「毎日ことば」からの引用です

<https://salon.mainichi-kotoba.jp/archives/228553>

〈初めの「巳」は左上の線が上につかず中途半端な空気がポイント。文法の「已然形」の「巳」で使われているので覚えた人も多いでしょう。「己」とも「巳」とも違う字で、訓読みは「やむ」。「やむを得ず」はいま平仮名で主に書かれますが漢字だと「巳むを得ず」です。「倒れて後巳む」などの慣用句で出てくることもあります。

次の「己」は自己の「コ」、訓の「おのれ」ともによく使われています。四つ目の漢字も同じですが、読み方は「キ」。「知己を得る」「克己心」の「己」で知られます。また、十二支ではなく十干の方の「己」（つちのと）にも使われます

第3の「巳」こそ、今年のエトですね。訓は「み」ですが、音読みは「シ」です。ちなみに3月3日のひな祭りは「上巳（じょうし）の節句」ともいいますが、「じょうみ」とも読むとされています。

気を付けるべきなのは、人名では「己」で「み」と読む例が少なくないことです。プロ野球楽天の辰巳涼介さん、冒険家で故人の植村直己あたりが有名です。この三つの覚え方は昔から歌のような文言で伝えられています。

巳（み）は上に、巳（すでに） 巳（やむ） 巳（のみ） 中ほどに、己（おのれ） 己（つちのと） 下につく

あるいは

己（き） 己（こ） の声、己（おのれ） 己（つちのと） 下につき、巳（い） 巳（すでに） なかば、巳（し） 巳（み） はみなつくゝ